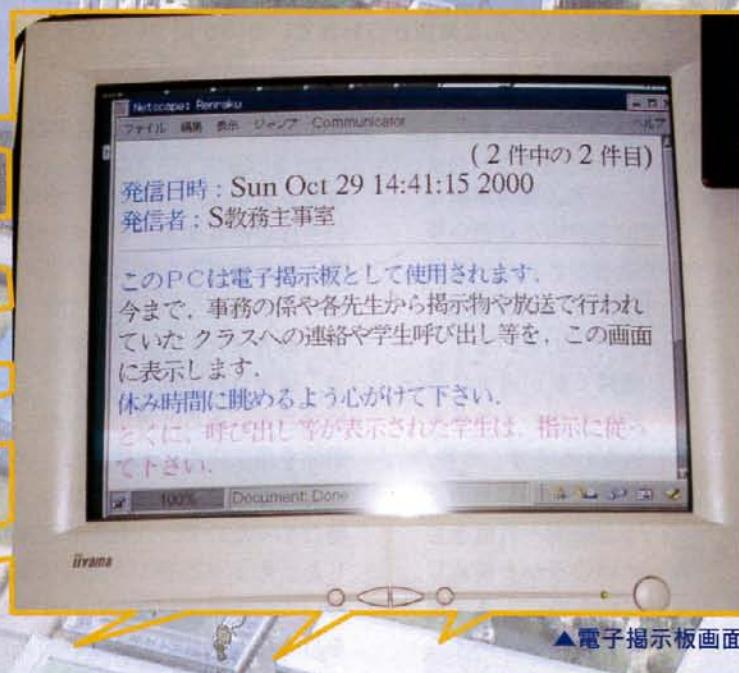


有明高専だより

第102号
2000.11



▲電子掲示板画面



▲一般教育科多目的室



▼電気工学科情報処理演習室

特集 有明高専の会を探る	2・3
シリーズ 研究室訪問	4
シリーズ 中学校訪問	5
ロボットJリーグ・公開講座	6
夏期実習報告、電気工事合格者	7
高専祭	8・9
九州地区・全国高専体育大会	10・11
シリーズ クラブ紹介	12
英語弁論大会、エコラン、ソーラーボート	13
留学生歓迎会、有友具楽部大蛇山	14
NHKロボコン、防火避難訓練	15
Version Up! 有明高専	16



▼建築学科CAD室



有明高専の会を探る

今年1月に、教官の自発的な情報交換・意見交換の場として、教育、研究、教育組織等について発表する有明高専の会の第1回が実施され、8月には第2回目が開かれました。この会は学校側から提案したものではなく、先生方が自主的に呼びかけられて始まったものです。学科を超えて横断的に多くの賛同者を得て実りある会となっています。どんな意図でどんな発表が行われているのかについてお話を伺いました。

出席者：酒井 健（一般教育科）、村岡良紀（一般教育科）、

塚本俊介（電気工学科）、北岡敏郎（建築学科）

司会：宮川英明（教務主事）

宮川：有明高専の会は、内容も教育、研究、特別講演と幅広い内容になっていますし、自発的な自由な会というところがすばらしいと思います。世話役をされている酒井先生および村岡先生に、この会を思い立たれた動機・理由について、まずお話をいただきたいと思います。



酒井：私が高専に着任したばかりでまだ何もわからず、今後、高専で自分がどのような研究・教育をしていくかと模索していた時に、まずは各先生方がどのような研究や教育をされているかということ

に興味・関心がありました。しかしながら、それらの情報を得る機会は（特に所属学科が違うと）ほとんどなく、学内で他学科の先生方とコミュニケーションをとることができるのは食堂での昼食時や学内で偶然に会ったときぐらいでした。そこで、各学科間の枠を越えて、そのような情報交換や意見交換を気軽にできる機会をもちたいという「希望」と、最近の世情から学内における研究・教育を活性化するための「必要性」を強く感じました。また、同じようなことを思っておられる先生方が結構いらっしゃいましたので、村岡先生と共に「第1回有明高専（若手？）教官の会」として開催してみることにしました。

宮川：村岡先生はどうですか。

村岡：大学ではセミナー等が活発に行われており、新しい情報や知識を得る機会が多いようです。一方高専では会議やクラブ活動等があるため、放課後の時間であってもなかなか大学のようなセミナーを催すことができない

のが現状だと思います。自分自身はセミナーのようなものを高専でもできないかなとぼんやり考えたこともありましたが、実行に移さずにいました。また、主事室を経験し、高専のことがよくわかるよう

になりました。主事室を経験しないとわからないことがあります。そこで、得られた情報をできるだけ多くの方に提供できれば、有明高専の発展につながると思い、酒井先生から相談を受けたときに賛同したわけです。高専は大学と違って教育的なファクターが大きいので、研究分野が異なっても、このような会を設けることは意義があると思いました。それで、第1回目は特別講演を川上先生にお願いし、学生相談室についてお話ししていただきました。第2回目は専攻科に関する情報を得たかったので、これを特別講演にしたいと思っていました。ちょうどそこに北岡先生と氷室先生から専攻科についての講演をしたいという申し出があったので、それを目玉にしました。この会が、有明高専の教職員間の教育・研究を通じた交流・セミナー・共同研究のきっかけとなるのではないかと思っています。

宮川：北岡先生は特別講演で、高専の専攻科に進学した場合と大学の工学部3年に編入学した場合の二つのケースについて、進路を選択する学生の立場から比較・検討され、いくつかの項目についてメリット、デメリットを分かりやすく整理され、講演されました。先生が、特別講演でお話をしようと思われた動機についてお聞かせ下さい。

北岡：本校では長年にわたり専攻科を要望していましたが、当初から「専攻科の設置ありき」で、その教育的意義についてはあまり議論されてこなかったと思います。私自身、専攻科でどういう学生を育てるのかがよくわかりませんでした。また、学生は大学教育自体をよく知らないわけですから、大学進学と専攻科進学それぞれの特徴を理解する方が良いと考え、二つの教育を整理しました。報告内容を概略説明しますと、専門教育、人的交流、生活環境、経済性、卒業後の資格と就職の5点について大学教育と専攻科教育を比較し、特徴をまとめました。その結果、専攻科教育はただ経済性の面で優れているだけでなく、専門教育の点でも大学教育に勝る点が多い、そういう可能性が高いということがわかつてきました。たとえば、大学教育では高専で既に習った教科内容の復習になる部分が多いのに対し、専攻科ではより深い専門教科が実践的に学習できることなどです。このように専攻科を捉えると、これまで大学編入だけだったのが、大学進学と専攻科進学とより多様化し、選択の道が広がったことになります。人や生活環境などの新しい刺激を求めたい人





は大学進学を、専門をより深く学習したい人は専攻科を選べばよいわけです。また、専攻科は専攻科生だけでなく、本科生にとっては身近な目標ができ大いに刺激になりますし、教官においては授業時間が倍加するなどの大変さはありますが、研究が深化するなどの教官の力量を高める機会にもなるわけです。ですから、教官自身も大学教育とは違う優れた教育ができるというスタンスに立つことが重要だと思います。こういうことがわかつてきましたので、ぜひ学内で議論をして、我々が目指す専攻科生を共通にイメージする必要があると考えました。そこで、氷室先生と話し合って、技術者教育からみた専攻科教育、高専教育における専攻科教育の位置づけ等を議論しようと有明高専の会で報告したものです。

宮川：先生の講演はたいへんよく整理されていて勉強になりました。それぞれの教官がこのようなことについてよく知っていて学生指導にあたる必要がありますが、専攻科準備委員会等の学校の組織は設置のための討議・検討でいっぱいのためそこまでの余裕がないのが現状です。有明高専の会のような学科を越えた自由な発表の場で話され、それについて討議をされたことにはたいへん意義深いものがあると思います。さて、塚本先生はパルスパワーによる排ガス浄化についてのご自分の研究を紹介されましたね。学校でよく顔を合わせてもお互いがどのような研究をしているかあまり知らないものです。私もこの有明高専の会によって初めて先生のご研究について知ることができたへん興味を覚えました。研究室レベルではなく実際の火力発電所での取組みはご苦労も多いものと思います。先生がこの有明高専の会でご自身の研究について発表しようと思



われたきっかけをお話下さい。

塚本：私の研究は、パルスパワー（パルスパワーとは貯蔵したエネルギーを短時間に急激に放出するときの大電力のこと。自然界では雷がその代表的な例）を用いて



火力発電所などからの排ガスを無害なガスに処理しようというものです。今回の発表のきっかけは、私も教職員のみなさんがどのような研究をされて、どのような考え方を持っておられるかを聞きたいという気持ちがあり、この会を聴講したことです。聴講ばかりでは虫が良すぎるので、この際、私の研究の概要を紹介しようということで発表した次第です。これまでの発表は研究や教育に関する講演が多いですが、もっと広くても良いのではないかと思います。高専には大きく分けると教育・研究・運営・クラブ指導の4つの仕事があると思います。この有明高専の会は単なる研究発表会ではないと思うので、それぞれの分野の仕事で困っていること、工夫してよかったことなど、討議をするような場であってもよいのではないかと思っています。

宮川：これからこの会の在り方として教職員が本音で議論できるような場であってもいいのかかもしれません。テーマを決めて開催するいろいろな教職員の考え方や意見を聞いて議論できるのではないかと思います。また、学生諸君にも参加を呼びかけ、有明高専全体でこの会を盛り上げていってほしいと思います。本日は、どうもありがとうございました。（文責 氷室昭三）



講演プログラム 【特別講演テーマ】 専攻科について

日時：2000年8月29日（火）9時～

場所：有明高専 多目的室

9:00 ～9:10	はじめに	一般教育科 酒井 健
9:10 ～9:40	地球温暖化分子計測用レーザーレーダーの開発	電子情報工学科 内海 通弘
9:40 ～10:10	パルスパワーを用いた大気環境浄化	電気工学科 塚本 俊介
10:10 ～10:40	サンゴ礁が語るむかしの地球環境	一般教育科 中島 洋典
11:00 ～11:40	【特別講演】専攻科の現状について	物質工学科 氷室 昭三
11:40 ～12:20	【特別講演】進学における専攻科の位置づけと求められる指導・対策	建築学科 北岡 敏郎

13:30 ～14:00	化学を教える側になって実感したこと	一般教育科 松尾 明洋
14:00 ～14:30	セクシュアル・ハラスメントの防止のために認識すべき事柄について	一般教育科 川上 龍男
14:50 ～15:20	養護学校における知的障害児の機能回復を目的とした自走車の開発	機械工学科 木下 正作
15:20 ～15:50	魚類による環境ホルモン汚染評価に関する研究	物質工学科 山口 明美
16:00 ～16:30	私とアイルランドⅡ ～5年間の軌跡～	一般教育科 谷口 光男
16:30 ～17:00	鋼構造柱梁溶接接合部の破壊に関する研究	建築学科 岩下 勉
17:00 ～17:10	おわりに	一般教育科 村岡 良紀

永守知見研究室（電気工学科）

永守先生をお訪ねて、合同教育南棟にある電子基礎実験室の一画にお邪魔しました。真新しい部屋の棚にはビーカーや試験管、各種の試薬などが納まり、そこは電気工学科の実験室とは思えない不思議な空間でした。

—いったいどんな研究をなさっているんですか？

人間の味覚を代行するセンサーの研究を行っています。人間が味を判断するには、香りや歯触りなども関係してきますが、舌の味細胞を感じるのは、基本味と呼ばれる甘味、塩味、酸味、苦味、うまみの5つです。舌の味細胞に食品がくっつくと、電気信号が味神経を通じて脳に伝達され、人は味を感じます。

—そこに電気が関係してくるのですね。

研究で用いているこの味覚センサーには、味細胞の代わりとなる8種類の人工薄膜をとりつけてあります。その薄膜はそれぞれ違った味覚刺激に反応して、電気的な信号を出しますが、それを測定することで、舌で感じる味を定量的に表せます。

—今、学生さんがつくっているのが薄膜ですか。

そうです。センサーは8種類の薄膜を用いて、様々な食品の反応を計測しますが、その結果を解析し、官能検査と比較すると、それぞれの食品が、人の味覚表現で表された座標上のどこに位置するかを表す、味の分布図を作成できます。これまでに、ダシ、米、牛乳、ビールなどの味の分布図が作成されてきています。

—この研究を始めたきっかけはなんですか？

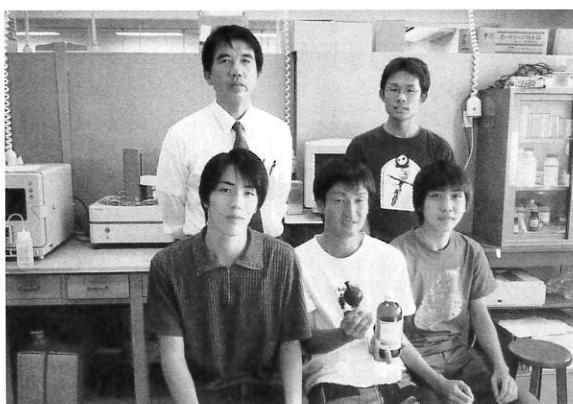
3年くらい前に新しい研究の方向を模索していたときに、現在の校長先生から紹介されて始めました。それまでの研究と隣接する分野として、以前から興味をもっていましたので、とっつきやすかったです。

—研究のどんなところが面白いですか？

味というのは人間が口で調べるしかありませんでしたが、甘い、酸っぱいなどの度合いを機械が判断できるようになります。またスイカに塩をかけると甘く感じますが、こういった現象も味覚センサーを用いて、味を測り分析することで、検証が可能です。

—今後の研究のご予定は？

味の阻害作用について研究を行おうとしています。食した後は甘さを感じなくなるギムネマ酸というものがありますが、その作用を検証する予定です。



明石剛二研究室（機械工学科）

総合実習センターに、明石先生をお訪ねしました。ちょうど卒研生の指導をされているころでしたので、卒研生も交えてお話を伺いました。

—研究テーマを教えて下さい。

機械工学の中で機械工作という分野の研究です。機械工作とは、機械を使って金属を削ったりして製作する品物を、いかに精度よく早く加工できるかを研究する分野です。現在、機械工作の中でも、特に穴加工を中心テーマとして研究しています。

—その研究を始めたきっかけは？

きっかけは、深穴加工の第一人者である機械工学科田口紘一先生との出会いでした。私が有明高専に赴任してきたとき、田口先生は、穴がなぜ曲がるのかを解説されたところで、穴の曲がる原因から曲がらない穴をあけるためにはどうすればよいのか、を研究されようとしていました。この研究は世界でも類を見ない研究で、私たちの研究が一番実用化に近いものです。

—おもしろいのはどんな点ですか？

穴加工は、加工しているところが観察できないので、難しいテーマです。さらに深穴加工になりますと、現象が複雑すぎて敬遠されがちな分野ですから、研究していくやりがいを感じます。

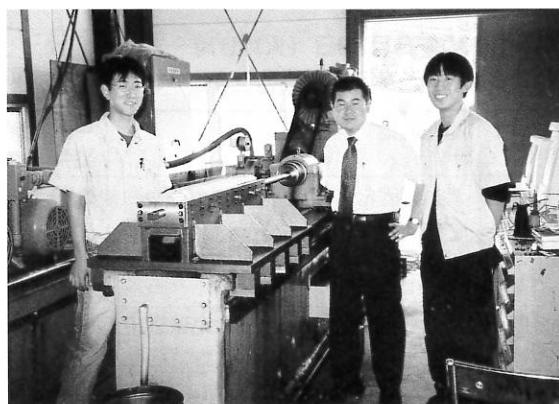
—卒研について教えて下さい。

今年は、曲がり制御深穴加工法の実用化を卒研のテーマとしています。特に、企業から依頼された深穴加工において、本曲がり制御加工法が現場で使われている材料や条件で実際に使えるかどうかの基礎実験をしています。基礎実験の結果から本方法が有効であることがわかれれば、実際に企業の生産ラインに、曲がり制御深穴加工システムを組み込むことになり、世界初の実用化が実現します。

—卒研生のみなさん、感想を聞かせて下さい。

中村圭吾：まだ加工していない段階なので、加工の状態がどういうものになるのかを楽しみにしています。

田中誠志：制御プログラムを組んだのですが、そのプログラムが思い通りに動いてくれるかどうか不安と期待があります。



シリーズ

中学校訪問

大牟田市立延命中学校



武藤千秋校長先生

9月29日、延命公園の隣に建つ延命中学を訪ねました。校舎の外観はコンクリートですが、中に入ると廊下は磨き込まれた温かみのある板張りでした。校務でお忙しい中、私たちのお相手をしていただいたのは、武藤千秋校長先生です。校長室に招き入れられて真っ先に目についたのは、部屋にかけられた“ENMEI 50th Anniversary”と書かれた白いTシャツでした。

中野：そのTシャツのことからお伺いしたいのですが。
武藤校長：これは、今年度が本校の創立50周年ですので、それを記念して作ったTシャツなんですよ。11月19日には創立記念式典を大牟田文化会館で行う予定で、プラスバンド部の記念演奏や、吉田兄弟による津軽三味線の演奏などを計画しています。

安部：2000年に50周年とはいいですね。その延命中学の特色はどんなところにありますか。

武藤校長：本校では国際理解教育を積極的に行ってています。昭和63年に、大牟田市の姉妹都市である中国大同市の大同市第三中学校と友好学校協定を締結しました。毎年、両校の生徒の絵画や書道といった作品を交換するなどの交流を行っています。9月26日の体育祭も、中国から来賓を迎えて盛大に行いました。

中野：校長先生は本年度着任されたということですが、延命中の生徒にどのような印象をもたれましたか。

武藤校長：あいさつをとてもよくしますね。今日も本校で高校の先生たちの初任者研修があったのですが、みなさんから「生徒がよくあいさつをしますね」と言われました。それに、校歌に「向学の意氣燃ゆる」とありますから、勉強をよくがんばっています。部活も一生懸命やりますし、英検も積極的に受け、海外経験が

ある生徒も多いですよ。(校長先生から、中学生英語暗唱大会や、生徒俳句大会入賞の記事を見せていただきました)しかし、一番うれしいことは、生徒が自分が延命中の生徒だということに誇りを抱いているという点です。卒業生も母校を誇りにしており、よく訪ねてきてくれますし、同窓会も盛んに行われていますね。そういうえば卒業生の中には、ロシアのボリショイ劇場で踊り、好評を博したバレエダンサーもいますよ。

安部：多彩な人材を輩出してきたのですね。ところで、有明高専にはどのようなイメージをお持ちでしょうか。

武藤校長：有明高専は、大牟田の期待を背負って誕生しました。ですから我々の学校という親近感を持っています。3年前でしたか、ジュニア・サイエンスフェアが有明高専を会場に行われたとき、献身的に協力していただきました。それに毎年行われている公開講座やロボットJリーグも、地域の子供たちに夢を与えていました。留学生が土曜日に中学を訪問して交流してくれるのも、子供たちの国際理解に役立っています。こういった有明高専の地域への貢献には、深く感謝しています。

校長先生のお話を伺って、高専が地域からこれほど親しまれ、頼りにされる存在であることを改めて思い知らされました。この後、校長先生の案内で、廊下や教室に展示されている大同市第三中学校から贈られた書道や絵画の作品の数々を見せていただきました。部活中の生徒の声が響く中、校長先生に感謝して、延命中学を後にしました。

(聞き手：一般教育科 安部規子、建築学科 中野浩志)

5

友好学校締結10周年記念 大同市第三中学校交流作品

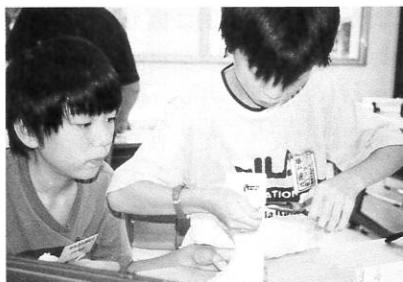


ロボットJリーグ

去る8月6日(日)に、荒尾総合文化センター大ホールで小・中学生面白ロボットコンテスト「ロボットJリーグ有明ステージ2000」が開かれました。今回も大牟田、荒尾両市内の小・中学校33チーム124人が出場し、自作のロボットで競技を行い優勝を争いました。これは最近、理科への興味が薄れていると言われている小・中学生に、ロボット製作を通してモノをつくる楽しさや喜びを知ってもらうための企画で、平成7年から始められ、今回で6回目を迎えました。7月26日から8月5日までのうちの9日間、機械工学科の教職員と学生の指導のもとに、ロボット製作が行われました。なお、製作場所は昨年までは寮食堂でしたが、今回は新築になった本校合同教育南棟および北棟1階でした。2人から5人でチームを組み、製作したロボットを操縦し、ボールをドリブルしながらポールの間を通る時間を競うドリブル部門と、10個のボールをシュートしてゴールした数を競うシュート部門で予選を行い、上位4チームで決勝戦を行いました。昆虫タイプのロボットなど、デザインも多彩で、楽しみながら競技に真剣に取り組む子供たちに会場からは大きな拍手が送されました。結果は右のとおりです。

(教務主事補 永守 知見)

- ☆ 優勝→笠原小Bチーム
- ◇ 準優勝→荒尾少年少女発明クラブチーム
- 優秀賞→駿馬北小Bチーム、橋中Aチーム
- アイデア賞→駿馬北小Aチーム
- 美術賞→羽山台小Aチーム
- ロータリークラブ賞→荒尾三中Aチーム
- 九州電力賞(新設)→倉永小チーム
- 大牟田市教育委員会賞→田隈中チーム
- 荒尾市教育委員会賞→荒尾一小Bチーム



6

公開講座

■よくわかる1級建築士受験者のための最新建築工学講座

【】建築技術者(5月15日~6月2日)

!! 15日にわたる長期講座で充実し、難しいと思っていた「構造」と「環境」がよくわかるようになりました。

■楽しい電子工作教室

【】中学生(7月25・26日)

!! トランジスタやICなどの電子工作を通して、ものづくりの楽しさを体験しました。

■体験しよう! 身近な磁石の不思議な世界

【】中学生(8月1・2日)

!! 磁石のユニークな性質を身近に知ることができ、たいへん興味を持ちました。

■コンピュータを中身から知ろう!

【】中学生(7月25・26日)

!! コンピュータやインターネットを体験し、理解を深めることができました。

■やさしい化学と生物の実験講座

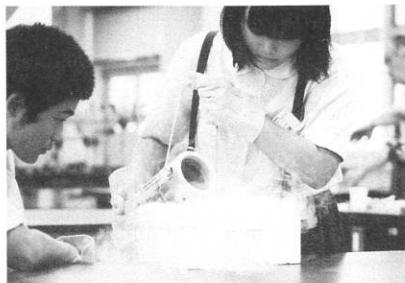
【】中学生(7月27・28日)

!! 化学と生物の実験を通して、これらの分野の関心を高めました。

■LAN構築初級講座

【】一般市民(9月9日、9月16日)

!! LAN構築に必要なことを演習や実技を通して学習しました。



夏期実習報告

夏期実習を終えて

建築学科4年 藤井 阳介

私は施工管理の分野に興味があり、大手ゼネコンの竹中工務店に実習に行きました。施工管理というのはいわゆる現場監督で、その仕事は現場のチェックばかりだと思っていましたが、その内容は予想を大きく上回るものでした。私がいた現場は、15階建て、建築面積約300m²の分譲マンションでしたが、これぐらいの中規模の現場でも数十社の業者が集まります。施工管理においては、この業者と現場の工程一つ一つの流れを全体としてまとめ、工期内に竣工を迎えることが重要であり、そのための施工計画を立てることが、最も大切な仕事です。施工計画では、細かな段取りや仮設などを安全に効率良く、しかもいかにコストを抑えるかというのが問題であり、そこが一番の腕の見せ所だと言えます。

私が行った現場は、福岡市の西新にありましたが、敷地が狭く交通量の多い昭和通りに面しており、その施工計画は大変難しいものでした。鉄骨を組むにしても3回に分けて組み、その都度クレーンを変えながら行うという作業で、コンクリートを打設するのにも、現場にはポンプ車が1台しか入らないので、1日にせいぜい200m³程度しか打設できないといった状況でした。私がいた頃はまだ地中梁の型枠、コンクリート打設、脱型といった段階でしたが、工期が短い中で打設した次の日には脱型を行うという施工状況でした。

今回の実習で私は、施工管理の流れ、現場の雰囲気など大まかなことから、図面の見方、レベル、トランシットの使い方など細かなところまで学ぶことができ、本当に嬉しく思いましたが、自分の知識のなさ、社会の厳しさなども痛感しました。しかし、建築に対してよい意味で意識が大きく変わり、将来のための目標を見据えることができた実習でした。



夏期実習で得たもの

機械工学科4年 甲斐 隆嗣

私は今回の日本ガイシ株での実習で数多くのことを学びました。それは、実習の内容はもちろんのこと、社会人の方々の話や他の実習生との話を通して得たことが多かったと思っています。すなわち、私自身にとっては実習で行ってきた作業内容よりも、その作業を通じて、作業場の雰囲気やそこでの人間関係の重要性を学ぶといったことが、今回の実習での最大の収穫でした。

この実習で、私は、ハニカムという製品の製造に必要な口金について多くのことを調べ、評価したのですが、そこで気づいたことがあります。その一つは、思考力、創造力が何より重要であるということでした。私でさえも、朝から夕方まで2週間業務に従事していれば、内容を理解でき、私なりに幾つかの考察を導出できました。考察ができたということは、日頃の学校でのレポート作成などの基礎訓練があったからだと思っています。学校で学んだことが、就職してそのままの形で使えるものではありませんが、最終的には思考力、創造力につながることに気づきました。実験・実習を通じた学校での勉強がいかに重要であるかをあらためて実感できました。もう一つは、これから仕事をする上で最も必要な技術は、パソコンと英語だということです。正直なところ、私自身は、この二つは得意とは言えません。そこで、高専卒業後就職を考えていた私ですが、大学や専攻科さらに技術を高めて就職してもよいのではないかと思うようになりました。これは、一緒に実習した大学生との交流の中から考えたこともあります。このように、このわずか2週間の実習で、自分自身の考え方も大きく変わり、極めて収穫のあった夏期実習でした。

終わりに、実習生として受け入れ、お世話をいただいた日本ガイシ株の皆様に心からお礼を申しあげます。



■平成12年度 第1回電気工事担任者試験合格者

- デジタル第1種 → 4年 新庄 信博 5年 木村 彰宏 5年 古賀 剛
- デジタル第3種 → 4年 井上 義章 5年 高井 賢 5年 河野 清隆

■平成12年度 第一級陸上無線技術士科目合格者

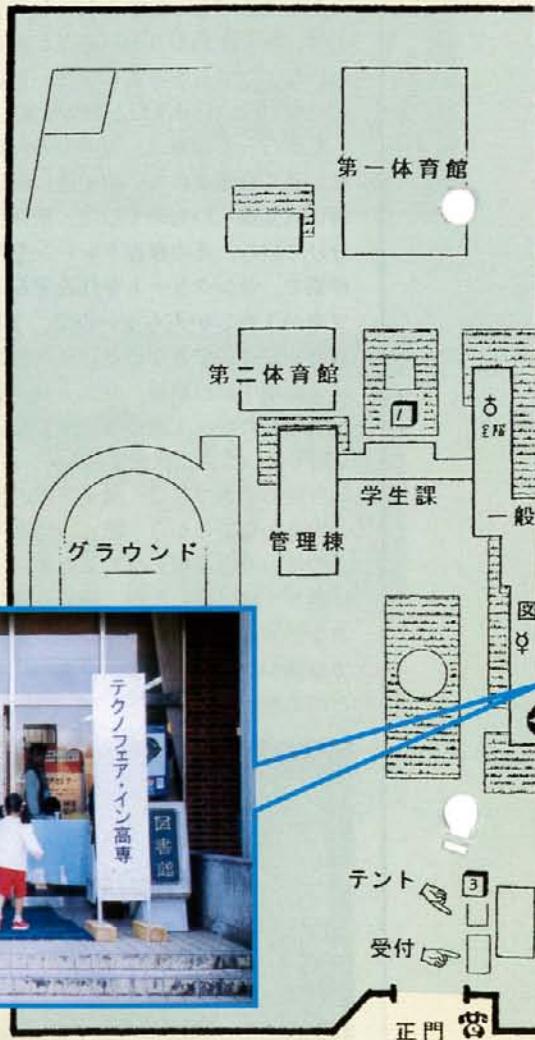
- 無線工学の基礎 → 5年 荒尾 泰玄

※全員 電気工学科

第22回 CULTURAL FESTIVAL OF ARIAKE 高専祭



平成12年11月3・4日



11月3日	12	13	14	15	16
①②③④⑤					
一般教育棟 その他	各学科催し物				
1	文化系クラブ展示 フォークソング、自動車工学、映研				
3 ★	フリーマーケット				
4	この人をさせ・オリエンテーリング				
1E教室	留学生コーナー				
	バンド演奏				

第2体育館 中夜祭 (16:30~20:30)

11月4日	9	10	11	12	13	14	15	16
①②③④⑥								
一般教育棟 その他	各学科催し物							
1	文化系クラブ展示 フォークソング、自動車工学、映研							
2	フリーマーケット							
3 ★	テクノフェア in 高専							
4	この人をさせ・オリエンテーリング							
1E教室	餅つき							
	バンド演奏							

NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

未来予航 ~進めば何かが見えるハズ~



九州地区高専体育大会

期日：平成12年7月22・23日

平成12年度 第37回九州地区国立工業高等専門学校体育大会成績

<熊本会場>

▼陸上競技

- | | |
|--------------|----------------|
| ◎ 男子走り高跳び | 2 位 河野 宏俊 (5E) |
| ◎ 男子110mハードル | 3 位 田畠 大成 (3I) |
| ◎ 女子走り幅跳び | 優 勝 黒田 英里 (2C) |
| 女子砲丸投げ | 3 位 獅子原示紗 (2I) |
| 女子走り幅跳び | 3 位 川内美奈子 (5C) |

▼バドミントン

- | | |
|-----------|------------------------------|
| 団体戦 | 予選敗退 |
| ◎ 男子シングルス | 優 勝 吉開 亮介 (5C) |
| 団体ダブルス | 予選敗退 |
| 女子シングルス | 3 位 松田 智恵 (4I) |
| ◎ 女子ダブルス | 2 位 岡部 広奈 (2C)
柿木 美紀 (1C) |

▼ソフトテニス

- | | |
|----------|------------------------------|
| 団体戦 | 予選敗退 |
| 男子ダブルス | 予選敗退 |
| ◎ 女子ダブルス | 優 勝 永松明日香 (3I)
米田 理美 (3C) |

▼水泳

- | | |
|-------------|--|
| ◎ 団体戦 | 総合優勝 |
| ◎ 男子400mリレー | 2 位 古田 浩一 (2A)
井形 史朗 (1I)
西丸 優樹 (1M)
紺井 幹升 (4C) |
| 〃 メドレーリレー | 3 位 石田 泰宏 (1A)
井形 史朗 (1I)
古田 浩一 (2A)
上田 茂樹 (3M) |

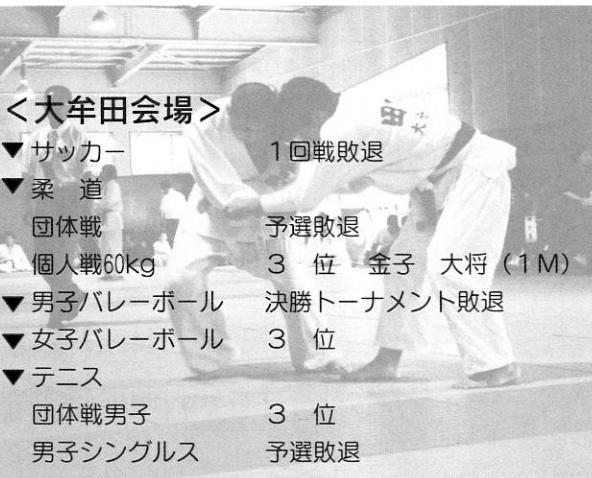
◎ 100m背泳ぎ

- | | |
|--------------|----------------|
| ◎ 100m自由形 | 2 位 藤江 周作 (1E) |
| ◎ 100m平泳ぎ | 2 位 紺井 幹升 (4C) |
| ◎ 200m平泳ぎ | 2 位 井形 史朗 (1I) |
| ◎ 〃 平泳ぎ | 優 勝 古田 浩一 (2A) |
| ◎ 200m個人メドレー | 優 勝 古田 浩一 (2A) |
| 400mメドレーリレー | 3 位 石田 泰宏 (1A) |
| ◎ 女子50m背泳ぎ | 2 位 曽我部寛子 (5A) |
| ◎ 女子100m平泳ぎ | 2 位 西山絵里子 (2I) |

▼◎ハンドボール 準優勝

M・Eなどとあるのは、次の学科を意味するものです。
M（機械工学科）、E（電気工学科）、I（電子情報工学科）、C（物質工学科）、A（建築学科）。

◎は、全国大会出場種目等です。



<佐世保会場>

- ▼ ◎女子バスケットボール 優 勝



ALL JAPAN ATHLETIC MEETS OF COLLEGES OF TECHNOLOGY

全国高専体育大会 (北海道大会) 期日: 平成12年8月5日~8日

平成12年度 第35回全国高等専門学校体育大会成績

<旭川会場>

▼陸上競技

男子110mハードル	予選敗退	田畠 大成 (3 I)
男子走り高跳び	予選敗退	河野 宏俊 (5 E)
女子走り幅跳び	5 位	黒田 英里 (2 C)



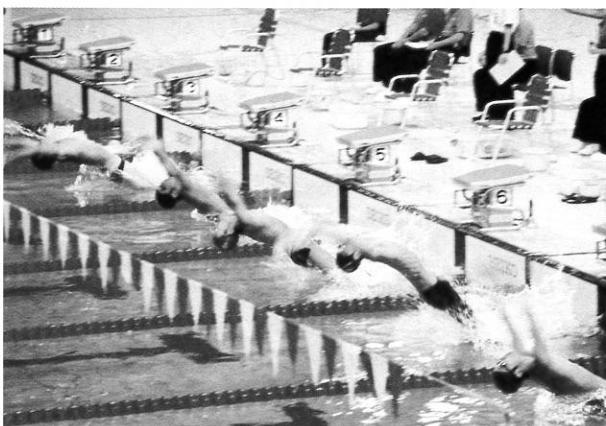
▼ソフトテニス

女子ダブルス	2回戦敗退	永松明日香 (3 I) 米田 理美 (3 C)
--------	-------	----------------------------

<函館会場>

▼バドミントン

男子シングルス	優 勝	吉開 亮介 (5 C)
女子ダブルス	2回戦敗退	岡部 広奈 (2 C) 柿木 美紀 (1 C)



▼水泳

男子200m(平泳ぎ)	6 位	古田 浩一 (2 A)
男子〃(個人メドレー)	4 位	古田 浩一 (2 A)
女子50m背泳ぎ	7 位	曾我部寛子 (5 A)
男子200m平泳ぎ	予選敗退	井形 史朗 (1 I)
男子100m平泳ぎ	予選敗退	井形 史朗 (1 I)
男子100m自由形	予選敗退	紺井 幹升 (4 C)
男子100m背泳ぎ	予選敗退	藤江 周作 (1 E)
男子400mリレー	予選敗退	古田 浩一 (2 A)
		井形 史朗 (1 I)
		西丸 優樹 (1 M)
		紺井 幹升 (4 C)
女子100m平泳ぎ	予選敗退	西山絵里子 (2 I)

▼テニス

男子ダブルス	2回戦敗退	末吉 直樹 (5 M) 武田 俊介 (4 C)
〃	2回戦敗退	西田 訓宰 (4 C) 鬼丸 恵介 (4 A)



<釧路会場>

▼ハンドボール

予選リーグ敗退 (1勝1敗)

<苫小牧会場>

▼女子バスケットボール

第3位

第30回 西日本地区高等専門学校弓道大会成績

平成12年7月26日(水)~27日(木)

〈北九州市立夜宮弓道場〉

女子個人の部	優勝 田崎 菜緒 (2 I)
女子団体の部	3位
男子団体・個人の部	予選敗退



華道愛好会

FLOWER ARRANGEMENT CIRCLE

華道愛好会一同

高専祭での華道愛好会の展示を見ていただけましたか？たぶん皆さんが考えている『華道』とは少々違う印象を持ったのではないでしょうか。『生け花』というと樹枝・草花などの枝葉を整えて剣山の入った花器にさすことだと思われているでしょうが、家庭にあるような花瓶に樹枝・草花などをさして紙類やカラーワイヤーを使って装飾するフラワー・アレンジメントなども『生け花』の一種です。『華道』とは決して堅苦しいものではないということがおわかりいただけたのではないかと思います。

現在、華道愛好会には、5年生2名、4年生7名、3年生2名の合計11名が所属しています。例年、4年生になって入部する学生が多いために高学年の人数が多く、部員は3月に（卒業などにともなって）激減したのち5月以降に急増する傾向にあります。部員11名のうち2名が留学生（イランのシャルミンさんとインドネシアのリラさん）で、本校の女子留学生の大半が華道愛好会に一度は入部している状況です。現在、国際化という言葉をよく耳にしますが、英会話を習得するだけが国際化に対応しているのではなく、日頃から外国人との交流をもち、日本の伝統芸術について知ることも大切なことだと思います。華道愛好会で国際交流の場をもち、日本の伝統芸術に触れてみてはいかがでしょうか。

クラブ活動は、毎週金曜日の16時30分から図書館1階の和室で実施しています。『華道』とは『道』という漢字がついているだけに、あるルールに従って樹枝・草花など生ける訳ですので、学外からお花の先生（山崎碧先生）を招いて練習をしています。本年度から華道の名門である池坊に入会しており、真面目に練習すれば許状の取得も可能です。

現在入部している部員の中には他のクラブと兼ねている学生も数名います。興味のある学生は是非一度クラブ活動の様子を見学して下さい。



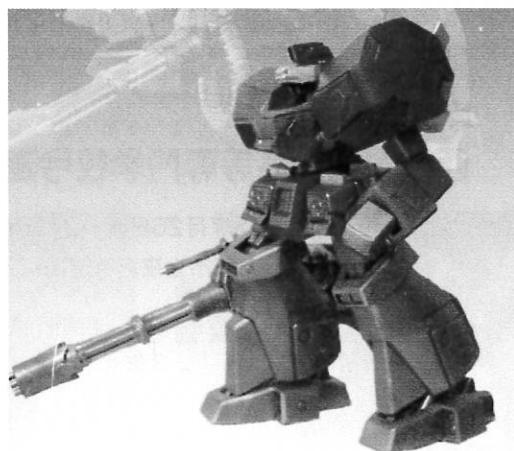
模型愛好会

MODEL CIRCLE

電子情報工学科4年 吉田 努

部長の吉田です。模型と言っても、いろいろな種類のものがあります。ガンダム等のキャラクターモデルや戦車等のミリタリーモデル、航空機のエアモデル、カーモデルがあります。基本的に材質はプラスチックです。しかし、ガレージキットという少数生産の模型に多いのは、ウレタンやシリコンです。また、城やミリタリーモデルではジオラマと呼ばれている情景模型もあります。建築模型もこれに入れています。キットの場合は、説明書の通りに作りますが、改造する場合や自作する場合、ジオラマには本人が別に設計図みたいなものを頭にいれておく必要があります。難しいと感じるかも知れませんが、結構適当なところがあるので気軽に考えていいと思います。大変なのは作りあげることです。ヤスリがけをしたり接着したりと単純な作業の割に、失敗すると投げ出したくなる時が多いので、諦めずに続けることが難しいです。僕自身も失敗作は数知れず、失敗した方が多いのではないかと思います。しかし失敗してもそれが着実に経験となってあとの模型に繋がっていくのでやめてしまおうとは思いません。それに、自分の手で模型を作っていく過程はすごく面白いです。これを読んでいる人は是非とも1つ模型を作つていただきたいです。作るときの辛さもありますが、完成したときは充実感があります。

佐世保高専にも今年から模型同好会が発足すると聞きました。同じ九州内の高専としてはネットワークを強めていきたいです。最後に活動内容としては、作るだけでなく、写真を撮ったり、合成なども行っています。今後、他の文化部とも協力して何かができるいいなと思っています。



英語弁論大会

物質工学科4年 古庄 和美

ENGLISH SPEECH CONTEST

第33回九州地区国立高専英語弁論大会が、7月27日に久留米高専で行われました。

我が有明高専から、スピーチの部には建築学科3年の西川美耶さんと私が、暗唱の部には物質工学科2年の進藤なつみさんの3名が出場しました。結果は、進藤さんは見事に優勝し、私は準優勝することができました。年々レベルが上がっていくなか、私達がこうして入賞することができたのは、徳田先生と安部先生そして福島先生が熱心に指導してくださったおかげだと心から感謝しています。また、会場に応援に来てくれた部員にも大変励まされました。

私が英語弁論大会に行くのは、今回で4度目になります。弁論大会の良い所は、人前に立ち、自分の伝えたいことを英語で伝えるということはもちろんですが、毎年各高専にたくさんの友達を作りお互い

の情報交換などができるところです。弁論大会が終わってもお互いに連絡を取り合い、刺激を受けながら生活しています。

私はこの経験を活かし、さらに活躍できるようにこれからも頑張っていきたいと思っています。



ホンダエコラン

機械工学科5年 横山 儕治

HONDA ECOPOWER

自動車工学部は、ホンダ主催の「エコノパワー競技大会」に毎年参加してきました。この大会は、制限時間内にサーキットを7周走り、消費したガソリンを計測し、1ℓで何km走ったかを競う大会です。参加チームの約1/3が完走できない状態で、本校もこれまで正式記録を残せていません。

今年は、まず完走できるマシンを作り上げることを目標に努力してきました。校内の試走も順調にゆき、8月6日㈰に開かれた大会に参加しました。車検もパスし、機械工学科3年中原君運転のマシンは無事スタートしました。4周を順調に走ったのですが、5周目の途中で突然エンジンが停止し、走れなくなりました。予定外のタイムロスのため、その後は完走することが難しくなりました。しかし、い

ろいろ努力した結果、なんとか制限時間内に7周を走り終えることができました。正式記録は66.7km/ℓで、記録的には良くなかったのですが、一つの目標であった「完走すること」を達成できました。部員一同ほっとしました。来年はさらに良い記録が出せるように努力したいと思っています。



ソーラーボート

ソーラーボート製作チーム一同

SOLAR BOAT FESTIVAL

ソーラーボート日和のもと、8月5・6日に開催された柳川市主催2000ソーラーボート大会に参加しました。ソーラーボート大会には今年で4度目の出場、どうしても良い結果を残したいと、船名を「4度目の正直号」として参加申し込みをしました。しかし、製作の取り掛かりが予定より大幅に遅れたことに加え、経験者が少なく、作業は思うように進みませんでした。結局、昨年度のボートに改良を加える程度しかできず、不安を抱えての出場となりました。

結果は、学生の部総合で50艇中31位、スラロームでは25位、フリースタイルでは制限時間を超えてゴールするなど、思うような結果を残せませんでした。さらに一番心配していた周回レース競技では、完走ができるかどうか不安でしたが、制限時間はオーバーしたもの、無事に完走することができました。今年は良い結果を残せませんでしたが、周回レースの

完走ができ、新しいメンバーにとっては良い経験になったと思います。来年は今年度のメンバーに加え、すでに新たな参加希望者もいて、心強いメンバー構成になりそうです。来年度は、今年の経験を生かし、ぜひ上位を狙っていくようなボートで大会に臨みたいと思います。5度目の…をご期待ください。



留学生歓迎会

WELCOME PARTY FOR OVERSEAS STUDENTS



今年も3名の新しい留学生がやってきました。フィリピンからデラ・クルス・ジョナタン・ジェイ・アブドン君（電気工学科3年）、マレーシアからタン・ミョー・チンさん（電子情報工学科3年）、インドネシアからリラ・クルニアサリさん（物質工学科3年）の3名です。彼らの歓迎と関係教職員、学生の親睦をかねて、去る6月1日、本校修己館において「新入留学生歓迎会」が催されました。新入留学生のスピーチ、在校留学生の母国紹介、吹奏楽部の演奏、学生会による大牟田市の名所案内、建築学科の森山先生による夏まつり“大蛇山”の紹介などがあり、参加者一同楽しいひとときを過ごすことができました。

（教務主事補 永守知見）



有友俱楽部大蛇山

DAIJAYAMA BY YUYU CLUB

ことしの大牟田夏まつりに、 学生の手づくり「大蛇山」登場

有明高専として参加して今回が5回目。地元大牟田市の最大イベント「大牟田夏まつり」。“一万人総踊りに大蛇山を！”が、有明高専同窓会有友俱楽部の皆さん、高専教職員の皆さんのが願いでした。

幸い、今年度から地元勝立公民館が地域に呼びかけて「ふるさと大蛇をつくろう」の計画が実行されました。そこで、本校もD I Y愛好会メンバーを中心参加、4月より毎週土曜日午前中、公民館で、地域の老若男女（小学生から70歳代まで）が集合、竹細工師の吉田



弘さんの指導のもと、本格的な大蛇山づくりとなりました。学生諸君も、定期試験期間中を除き皆勤に近い参加で積極的に製作に当りました。

公民館の大蛇山がほぼ完成に近づいた頃から、高専大蛇山製作に着手。最初は週末のみでしたが、後半は連日深夜まで製作、計画通り7月15日にすべて完成。

7月23日のまつり本番には、イルミネーション（電飾）もセットして登場。同窓生、本校関係者はもとより、市民からも高い評価を得ることができました。学校と地域社会との自然なふれあいの場である夏まつりを大蛇山製作という形で盛り上げてくれた学生はつぎの7名です。中村圭吾君、緒方康悦君、木下博君、井上精史君、田中誠志君、近藤紀幸君、瀬戸俊史君。

ところで、指導の吉田弘さんは、本校電気工学科24期生吉田正君の父君。大蛇山は、竹、紙、わらでできていますが、竹の提供は、前勝立公民館長川上洋さん。わらの提供は玉川小学校（玉川地区青少年協会長中島崇さんのお世話）。そして、イルミネーションの車用ランプの提供は杉山自動車様でした。これら地域の皆様の援助で立派な大蛇山ができ上りました。これらの方々の縁と本校を支えていただいている地域の皆様の暖かいご援助を忘れてはなりません。

（D I Y愛好会顧問 川嶋義則）

NHKロボットコンテスト 九州地区大会

KYUSHU NHK ROBOT CONTEST

テーマ「ミレニアム・メッセージ」 平成12年10月22日(日) 於 久留米スポーツセンター体育館

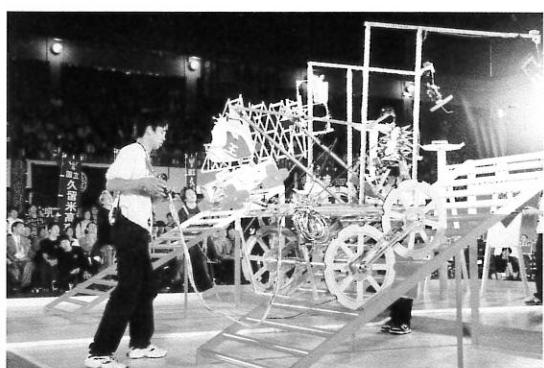
戦い終えて

Aチームリーダー 機械工学科5年 尾道 健一

ロボットコンテストは僕たちにとって最大のイベントです。マシンの製作では夏休みも毎日学校に来て試行錯誤を繰り返し、大会の1週間くらい前によく完成しました。その後調整をして大会に臨みました。僕たちのマシンは梯子を登るタイプですが、夏休みが終わってもまだ登れずになりました。そこで、一からマシンを設計し直しました。もう9月も半ばでした。定期試験中も製作していました。この頃Bチームは、すでに90%近く完成していました。

大会前日、テスランを繰り返し、本番前には戦えるマシンに仕上りました。初戦の相手は同タイプのマシンであり、しかも動きが速かったので負けたと思いましたが、相手のミスにより勝つことができ、最終的にベスト4まで勝ち上がることができました。

5年間ロボコンに参加し、うち2回リーダーを務めましたが今年は設計の難しさ等いろいろ体験しました。5年生メンバーお疲れ様。4年生以下のメンバー是非全国大会へ行ってね。



◀ (マシン名: 南風)

最高のロボコンを終えて

Bチームリーダー 機械工学科5年 篠崎 烈

2000年ロボコンの最初の敗者となった私たちのチームは、この4ヶ月間、他のどのチームにも負ることのない努力を続けてきました。チームの目標は「全国大会出場」です。7月から始めたマシンの設計・製作に至るまで計画よりも早く進み、より優れたマシンへと改良を加えました。私を含め常にチーム全員が期待と希望を込めて製作したマシンが、まさか、1回戦第1試合で敗れるとは誰も予想しませんでした。大会前日、マシンがポールを拒否しました。本番まで24時間もないときの発見でした。さらに、計量は1gの余裕もなくやっとパスした状態でした。学校に帰って、前日なのに夜中まで作業を続け、当日は余裕でパスしました。しかし、勝利の女神は微笑みませんでした。

今回のロボコンは、敗れはしましたが満足しています。先生方や友達の協力・心遣いを肌で感じ、そして何より、9人のチームメイトに出会い、同じ夢を持つことができたのだから…。



◀ (マシン名: のぼりんピック・COM)

防火避難訓練

FIRE DRILL

10月17日(火)7限目終了後、「物質工学科1階廊下から出火」との想定のもとに防火避難訓練が行われました。昨年は校舎改修のため消火訓練だけでしたが、今回、2年ぶりに避難訓練も併せて行われました。

どんよりとした雲行きの下、学生・教職員一同グラウンドに避難し、約11分で避難および人員確認を完了しました。その後、6つのグループに分かれて水消火器および粉末消

火器の訓練を行いました。また、避難と並行して、事務部消火班の訓練および各学科代表の教官に対しては消火栓の取り扱いの講習がありました。

消火訓練終了後、消防署より講評をいただき、避難時に緊張感がない、ハンカチを口にあてて避難すべきなどの指摘がありました。これらについては、次回の改善点にしたいと思います。
(教務主事補 永守知見)



Version Up! 有明高専

平成11年度校舎の増改築に伴い、新棟2棟に電気・物質・建築学科の実験室などが、一般教育棟には多目的室やCAD室などが新設された。また、1~3学年HR教室には電子掲示板が設置され、従来、掲示物や放送で行われていたクラスへの連絡や学生の呼び出しを、各教官室等から発信して表示できるようになった。

これらハード面での拡充と並行して、混合学級の実施をはじめとする教育ソフト面の諸改革も進行中であり、有明高専は次々とVersion upし続けている。

(教務主事 宮川 英明)

▼明るくなった図書館閲覧室

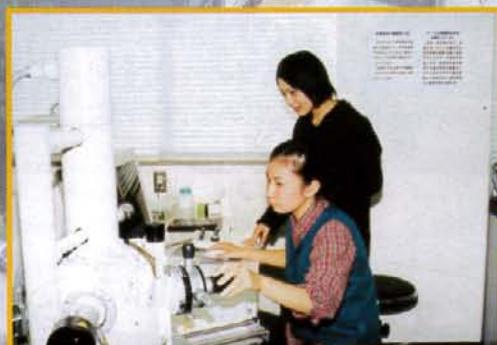


▲一般教育科CAD室



▲1~3学年HR教室の電子掲示板

▲物質工学科第2機器分析実験室



編集後記

突然舞い込んできた白川英樹博士のノーベル化学賞受賞のニュースは、我々をたいへん元気づけてくれた。この受賞は日本のオリジナルが世界に認知されたことを意味するものである。21世紀は、日本の科学技術がきっと世界に貢献することになるであろう。白川英樹博士の業績は、どうも30代前半で出されたものが評価されたらしい。これは、すでにノーベル賞を受賞された江崎玲於奈博士、福井謙一博士、利根川進博士と同じ年代の業績である。30代前半で業績を出すためには、やはり20歳までにしっかりと基礎知識を獲得しておかねばならない。学生諸君！勉学に励んで、白川英樹博士に負けないような独創的業績を生もうではないか。

有明高専だより 第102号

平成12年11月15日発行

編集・有明高専広報委員会

発行・有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861 (学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>